

地域と共に歩む

富山商工会議所議員
インタビュー①



段ボールの専門性を活かして 笑顔の未来を

富山商工会議所 副会頭
サクラパックス株式会社
代表取締役社長 橋本 淳

サクラパックス株式会社は1947年に創業。板紙類の加工販売からスタートし、現在は段ボールの一貫生産、包装、流通などの幅広いニーズに応えるトータルパッケージサービスを展開しています。富山、新潟、石川各県の地域産業を支えながら、得意とする企画、開発、設計力を駆使した独自商品を次々と開発。「熊本城組み建て募金」、自治体との災害協定、富山市が新生児に贈る「ベビーボックス」事業など、幅広い地域貢献に力を注ぐ同社代表取締役社長の橋本淳さんにお話を伺いました。

社長就任時はどうでしたか？

「37歳で3代目の社長に就任した2008年は、リーマンショックで会社の業績が一気に落ち込むという大変な時期でしたが、振り返ると一からのスタートが切りやすかった側面もありました。「一人でも多くの人を笑顔にする」という理念のもとに、社内改革を毎年1つずつ実行。十数年かけて、社員が主体的に考え行動する組織づくりを実現してきました。東日本大震災で10カ月にわたり現地などで復興活動

に携わった経験が、自分自身の人生の礎となり、会社組織の軸となる理念につながっています」

今後、富山のために何がしたいですか？

「国内の人口減少や世界における日本経済の現状などから鑑みると、地方にある富山の経済はますます厳しい状況に置かれることが懸念されます。若者の県外流出もただ引き留めるだけでなく、県外で成功した方が地元に戻返しする例が多いことに着目したり、北陸3県を一つのエリアとしてとらえたり。富山の枠組みで物事を考える『オンリー富山』の固定概念を取り払って、最終的に富山が良くなる流れをつくるべきではないかと考えます。」

固定概念を取り払うには仕組みから変える必要があります。そこに経営者としての経験値を活かせると思っています。富山の子どもたちが笑顔で暮らせる未来をつくるためにも、専門性を活かした社会貢献、そして副会頭という役割を最大限に利用させていただきながら、富山の発展のために尽くしていく考えです」

会員の方々へメッセージをお願いします。

「厳しい時代を打破していくには、会員がそれぞれの技術や強みを結び付けて新しい事業を創出し、それを世界に通用するような製品・サービスへと

発展させていくことが重要になると考えます。その仕掛けや仕組みづくり、後方支援していくのが商工会議所の役割であり、会員の皆さんには強みをより磨きながら、ビジネスパートナーを見つける場として利用してほしいと思います」



▲段ボール熊本城（組み建て）・2,000円／この売り上げは、熊本の復興のため全額寄付されます。「一人でも多くの人を笑顔にする」という理念のもと社員が発案。売上金だけでなく熊本を想う時間を届け、震災を風化させない、一時的でなくずっと支援したくなる新しい「仕組み」を創りあげた。

取材を終えて

新年の抱負について「コロナも沈静化して、堂々と海外へ出掛けられるようになりました。欧米、アジア各国を回り、世界の動き、世界のなかの日本を知る1年にしたいです」と語る橋本社長。「知行合一」をモットーに、富山経済のための新しい事業づくりに動き出す意向も示され、当所副会頭として付度なく行政に斬り込んでいく姿勢にもさらなる期待が高まります。



サクラパックス

創業 昭和22年5月20日
富山市高木3000番地
TEL：076-436-6191

